



TITLE:

歓迎挨拶

AUTHOR(S):

浅原, 利正

CITATION:

浅原, 利正. 歓迎挨拶. 京都大学附置研究所・センターシンポジウム: 京都からの提言- 21世紀の日本を考える (第10回) 「活力ある未来の "想像" と新たな展開を求めて」 2015, 10: 3-3

ISSUE DATE:

2015-03-14

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/216963>

RIGHT:

歓迎挨拶

広島大学学長 浅原 利正



ご紹介いただきました広島大学の浅原と申します。本日、京都大学の主催により京都大学附置研究所・センターシンポジウム・京都大学広島講演会が、ここ広島において開催されますことを、地元として、心から歓迎申し上げます。

人類社会は激しく変化し、ますます多様性、複雑性を増しています。21世紀は、知識、基盤社会といわれ、学術研究の進歩は加速し、京都大学で生まれた画期的なiPS細胞の発見は、いよいよ再生医療の臨床応用に進み、人工知能やビッグデータの展開は、人類社会を根底から変えようとしています。これらの進歩は、私たち人類社会に便利さと豊かさをもたらしています。

一方で、人類社会全体で対応が迫られている重要課題にも直面しています。「イスラム国」の残虐なテロ、頻発する地域紛争、迷走する民主化運動、貧富の格差拡大、増加する自然災害など、課題解決に向けて大学の果たす役割は、ますます重要になっていると思います。

大学の附置研究所・センターは、社会環境変化に対応しながら、高い研究水準を維持することが求められており、新たな知恵を創造する場として、学術研究上、重要な役割を果たしています。

広島大学では、世界最初の被爆地ヒロシマに開学したが故に、学士課程教育では、平和科目を必須として位置づけ、在学中に国際平和について考える機会を持つように勧めています。

同時に、附置研究所の原爆放射線医科学研究所では、人類初の原爆投下の影響、特に低線量被爆の影響研究を重ね、その成果を生かしてセミパラチンスク、チェルノブイリや福島原発事故などへの支援を継続して実施してまいりました。

ほかにも国立大学で最初に設置された平和科学研究センターや放射光科学研究センター、国際標準のトランジスタモデルを開発したHiSIM研究センター、日本で最初に設置された大学高等教育を研究するための専門機関である高等教育研究開発センター、最先端の観測天文学研究を推進する宇宙科学センターなどの研究所・センターがあります。

グローバル化社会が進展する今日、学術研究は、より学際性が増し、複数の分野で専門の異なった研究者の協力や基幹連携が求められています。大学や国の枠を超えて、学術研究ネットワークを強化して、社会からの期待にこたえていかなければなりません。また国立大学の教育研究活動を、このような機会を通じて国民の皆様にわかりやすく説明していくことも重要な役割であると考えます。

本シンポジウムでは、さまざまな分野で活躍されておられる先生方のお話を通じて、知を共有し、活力ある未来へ向けて、実り多いシンポジウムとなりますよう祈念して、歓迎の挨拶いたします。

